

知ってる?

上牧町の文化財

「上牧」の呼び名は、この地一帯がゆるやかな丘陵に抱かれて、放牧に適したところから出ていることは『日本書紀』や『続日本記』でうかがわれ、上の牧・下の牧があったとの口碑が残っています。『古事記』にこの地は当時の宮廷人達の逍遙の地で、しばしばその歩みを止めたほど眺めはすばらしい、へちへちの丘は古墳が点在するといわれています。



くどこぶんぐん 国史跡 上牧久渡古墳群

奈良盆地の西部、馬見丘陵のほぼ中央に位置する上牧町は、いわゆる片岡の地として古代大和における重要な文化圏を形づくってきました。この地に所在する上牧久渡古墳群付近は古代の葛下・広瀬郡にあたり、この地域に飛鳥・奈良時代の皇室の所領や陵墓も存在したことが木簡や文献資料から知られています。また、上牧久渡古墳群のすぐ近くの観音山から「上牧銅鐸」が出土しています。

◀上牧・久渡3号墳出土鏡 画文帯環状乳神獸鏡
▼上牧久渡古墳群全景（北東より）



どうたく 町内出土の上牧銅鐸

江戸時代に上牧町内の観音山から銅鐸が出土したと伝えられています。今に残る上牧銅鐸ですが、さらに出雲の加茂岩倉遺跡から出土した銅鐸と兄弟銅鐸と言われている上牧銅鐸を皆さんご存知ですか。

◀上牧銅鐸（静岡天満宮所有・静岡市立登呂博物館写真提供）



▲下牧瓦窯出土瓦（軒平瓦）

がよう 下牧瓦窯

下牧瓦窯は、県道（桜井・田原本・王寺線）付近での土取り工事中に上牧村史編纂の調査員によって発見されました。奈良県の緊急調査によって奈良時代頃の登り窯1基の存在が確認され、注目すべき瓦窯遺跡で「弘福寺三綱牒」の「瓦山」、「瓦窯」が近くに存在する可能性が高いと報告されています。



大切な長い歴史がある町だね！

中世の山城「片岡城」

上牧町内の下牧地区から金富地区へ抜ける峠道の頂部分に中世の山城と伝えられる片岡城跡があります。片岡城は1550年ごろに片岡国春によって築かれたとされています。下牧に片岡城を築く前は、隣町の王寺町と香芝市の境界あたりにある小高い山送迎山の標高262mのところの山に山城を構えていました。